

【施設状況】

グループ名称	篠ノ井こども広場(このゆびとまれ)							
指定管理者名	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団				法人番号	3013305000743		
所管課	主	117000	保育・幼稚園課	副				
構成施設	1503	篠ノ井こども広場(このゆびとまれ)						
施設分類	06	保健福祉2型	施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制
施設概要	建物延べ床面積:552㎡ プレイルーム、飲食ルーム、おひるね室、授乳室、活動室、会議室 敷地面積:1129, 59㎡							
施設設置目的	乳児及び幼児とその親の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進に資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。							
基本方針等	指定管理の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根差した施設となることを目指す。							
主な実施事業	①子育て中の親と子どもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てグループ等の育成 ④子育てに関する情報提供 ⑤遊びに関する指導助言 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦子育て講座イベントの開催 ⑧利用者支援事業 ⑨その他子育て支援に関すること							

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、事業計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター事業団			当該指定管理者の 指定回数	4 回	
指定期間	令和5年4月1日	～	令和10年3月31日	5年	当該指定管理者の 管理運営開始日	平成22年4月1日
指定 管理 者 の 健 全 性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。 また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。					評価
	特記事項 (問題等があった場合に、 その内容等を記入)	・組織としては東京本部、北陸信越事業本部と体制を整えて、全国で協同労働事例を活かした各種プロジェクトを展開している。他現場での不適切報告から法人全体でコンプライアンスとガバナンスの徹底した見直しを図り、全事業所で改めて研修を行った上での運営に努めた。				3

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)		利用区分等	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	対前年比	評価
		利用者	人	12,607	12,634	15,340	25,121	164%	4
		(内出張広場参加者)	人	151	380	300	280	93%	
		新規登録乳幼児数	人	392	408	956	1,131	118%	
		専門家相談件数	件	98	282	309	257	83%	
		子育てコンシェルジュ相談件数	件	1,353	1,342	1,307	1,170	90%	
		(特記事項) ・新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、利用者数と新規登録者数が増加している。利用の方法に制限(回数や予約)がなくなったことで利用しやすくなった。また、出張広場参加者の減少は、出かける場所が増えたからではないかと思われる。 ・相談件数は制限のあった前年度に比べ減少している。利用制限中は利用者人数が少ないことで職員が利用者一人ずつとの対話で困りごとや悩みごとを聴く体制が取れていたが、制限解除に伴う利用者増加によりフロア内の安全を優先するため対話に繋がりにくかったのではないかとと思われる。							
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案			追加事業、未実施事業及び未実施の理由				
	市指定事業	①子育て中の親と子どもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ④子育てに関する情報の提供 ⑥子育て情報誌の発行 ⑧利用者支援事業(子育てコンシェルジュ)⑨その他子育て支援に関する事			③子育てグループ等の育成 ⑤あそびに関する指導及び助言 ⑦子育て講座、イベントの開催				
	自主事業	<講座の開催>・親子でリトミック ・ベビーイングリッシュ ・親子でゆっくりヨガ ・親子ヨガ ・防災講座 <その他>・ゆずりあいウィーク、ゆずりあい3days(子ども衣料品、育児用品のリユース)、ゆずりあいBOXの常設			・「第4回ながの子ども・子育てフェスティバル」への参加 ・ふたごみつごon Sunday ・夢バザーへの参加 ・フードパントリー、パンの配布 ・長野県協同組合フェスティバルへの参加				
サービス維持・向上の取組み(広報等)	・新型コロナ感染症5類への移行に伴い、段階を踏みながら利用方法を緩和していった。 ・ホームページ、インスタグラムでの発信を行った。								

3 利用者評価

区分	内容	評価
利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法 利用者アンケート	4
	(2) 調査、会議等の内容 ・利用者アンケート調査(WEBアンケート)・・・令和5年11月6日～12月5日(1か月)回答者数67名 ・イベント終了後のアンケート「休日マタニティセミナー」「篠ノ井交流センター子育て広場」 ・利用者の声BOXの設置(広場内に投書箱を設置。苦情、好意的な内容などハガキ含む投書5件把握済み) 苦情のあった掲示物については、職員間で内容を再考し、また担当課に相談し、改善した。	
利用者からの要望・苦情等	(3) 調査、会議等の結果 ・アンケートで得た結果や意見・要望は、施設運営等の改善の参考とした。アンケート結果は意見・要望に対して回答を記入し、広場内に掲示するとともにホームページ上に掲載した。 ・イベント後のアンケートについては、共催者とともに運営の参考やニーズとして活用する。	4
	(1) 良好とする評価 「こども広場」利用者の満足度(満足65.7%) ・リフレッシュできた(55.2%)・子育て情報が増えた(49.3%)・親の友人、知人が増えた(37.3%) ・子育てが楽しくなった(35.8%)・子育て支援を実感できた(35.8%) 「どの日、どの時間に行っても明るく元気に挨拶をしてくれて、来てよかったと安心する」 「子どもの成長と一緒に喜んでくれてすごく嬉しい」「予約なしで好きな時に行けるのがとても助かっている」「スタッフが気さくで明るくとても居心地が良い」「いつも楽しい時間をありがとう」「毎回、ふれあいタイムを楽しみにしている」	
	(2) 苦情・改善等の要望事項 「こども広場」利用者の不満足度(不満足7.5%) ・スタッフの対応・施設(衛生面、安全、開館時間)・内容(楽しめない、期待に反していた)・距離、アクセス・他の利用者(トラブル、グループの輪に入りにくい) ・「おもちゃの数が少ないと感じる。また、月齢にあったようなものが少なく感じる。」・「以前よりも利用者の方が増えてスタッフが忙しそうに見え、話しかけづらい。」・「9時30分から開館して欲しい。」・「長野市に転入した方の交流会の開催をしてほしい」・「手形足形が取れる機会が欲しい」・「パパ同士の情報交換ができる会が欲しい」	
	<<対応措置>> ・アンケートに記載された内容については全て回答し、広場フロア内に掲示するとともにホームページ上に掲載した。 ・職員全員でアンケートの内容を共有し、苦情に対しての反省や改善方法を話し、業務にあたるようにした。 ・アンケートの意見要望は、職員が日々の業務を個々に振り返るチャンスととらえ、利用者にとって居心地の良い施設をつくることを最重要とすることを確認した。	

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和5年度)				市の収支				評価
	年度計画額		収支実績額		令和5年度決算		令和4年度決算(前年度)		
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額	
収入	利用料金		利用料金		使用料		使用料		歳入
	指定管理料	26,710,000	指定管理料	26,710,000	雑(納付金)		雑(納付金)		
	委託料		委託料	320,520	行政財産目的外使用料		行政財産目的外使用料		
	販売収入等		販売収入等		貸付料		貸付料		
	その他収入		その他収入	42,000	その他		その他		
					国・県補助金	10,433,000	国・県補助金	9,723,000	
	計	26,710,000	計	27,072,520	計	10,433,000	計	9,723,000	
支出	人件費	17,736,000	人件費	17,622,671	指定管理料	26,710,000	指定管理料	24,397,000	歳出
	設備管理費	278,000	設備管理費	371,511	委託料		委託料		
	備品購入費	100,000	備品購入費	149,700	需用費		需用費		
	修繕費	150,000	修繕費	66,838	役務費		役務費		
	光熱水費	980,000	光熱水費	1,041,726	使用料・賃借料	57,024	使用料・賃借料	57,024	
	事業費	2,313,400	事業費	1,830,809	修繕費		修繕費	128,700	
	事務経費	34,000	事務経費	25,959	工事請負費	1,064,800	工事請負費	698,500	
	本社経費	3,339,000	本社経費	3,400,040	備品購入費		備品購入費		
	その他	1,779,600	その他	1,847,710	その他		その他		
					補助金	0	補助金	600,000	
	計	26,710,000	計	26,356,964	計	27,831,824	計	25,881,224	
自主事業	収入		収入	127,800					
	支出		支出	103,600					
	自主事業損益	0	自主事業損益	24,200					
損益		0		739,756	差引	-17,398,824		-16,158,224	
人件費比率【人件費(賃金等)／令和5年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)								66.9%	
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由				本社経費は按分している為、変動しています。					

5 管理運営全般 ※すべて  で、「3」、「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分	確認内容	チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	配置実績 (うち市内雇用職員数) 施設長1(1) 子育て支援員8(子育てコンシェルジュを含む)(7) 事務1(1) 清掃2(2) 計12人		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
平等利用	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		
経理	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		
施設・備品の維持管理	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか		
セルフモニタリング等	2 備品はI種、II種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4

区分	確認内容	チェック欄	評価	
危機管理体制	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	☑	3	
	2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか			
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか			
	個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか		☑
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか		☑
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		☑
	緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか		☑
2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		☑		

7 地域連携

地域連携	地域の声聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。	評価				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>協定内容・指定管理者提案</th> <th>追加された内容、未実施の内容及びその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>                     ・教育機関との連携                      職場体験(篠ノ井東中、篠ノ井西中、川中島中) 実習(長野看護専門学校) 研修(長野保健医療大学)                      施設受け入れ(児童発達支援施設インフィニティ) ゼミ活動、ボランティア(長野県立大学) フィールドワーク(長野高校)                      ボランティア(長野俊英高校) サマチャーレンジボランティア(篠ノ井高校、文化学園長野高校、更科農業高校)                      ・地元(篠ノ井)業者からの物品購入、自動車リース、修繕作業の依頼                      ・商工会、篠ノ井駅前商店会との連携「篠ノ井軽トラ市」参加                      ・堰さらい、篠ノ井祇園祭、南条区節分会、どんと焼きへの参加                      ・信州新町授産センターより衛生用品購入                 </td> <td>                     ・地域資源回収への参加                      ・フードパントリー                 </td> </tr> </tbody> </table>	協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由	・教育機関との連携 職場体験(篠ノ井東中、篠ノ井西中、川中島中) 実習(長野看護専門学校) 研修(長野保健医療大学) 施設受け入れ(児童発達支援施設インフィニティ) ゼミ活動、ボランティア(長野県立大学) フィールドワーク(長野高校) ボランティア(長野俊英高校) サマチャーレンジボランティア(篠ノ井高校、文化学園長野高校、更科農業高校) ・地元(篠ノ井)業者からの物品購入、自動車リース、修繕作業の依頼 ・商工会、篠ノ井駅前商店会との連携「篠ノ井軽トラ市」参加 ・堰さらい、篠ノ井祇園祭、南条区節分会、どんと焼きへの参加 ・信州新町授産センターより衛生用品購入	・地域資源回収への参加 ・フードパントリー	4
協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由					
・教育機関との連携 職場体験(篠ノ井東中、篠ノ井西中、川中島中) 実習(長野看護専門学校) 研修(長野保健医療大学) 施設受け入れ(児童発達支援施設インフィニティ) ゼミ活動、ボランティア(長野県立大学) フィールドワーク(長野高校) ボランティア(長野俊英高校) サマチャーレンジボランティア(篠ノ井高校、文化学園長野高校、更科農業高校) ・地元(篠ノ井)業者からの物品購入、自動車リース、修繕作業の依頼 ・商工会、篠ノ井駅前商店会との連携「篠ノ井軽トラ市」参加 ・堰さらい、篠ノ井祇園祭、南条区節分会、どんと焼きへの参加 ・信州新町授産センターより衛生用品購入	・地域資源回収への参加 ・フードパントリー					

【総合評価】

評価項目	評価	得点	総合評価
指定管理者の健全性	3	6	<p>総合評価</p> <p>指定管理者の健全性 3</p> <p>施設の有効活用 4</p> <p>利用者評価 4</p> <p>事業収支 3</p> <p>管理運営全般 4</p> <p>危機管理体制 3</p> <p>地域連携 4</p> <p>合計得点 72</p> <p>----- 基準値</p>
施設の有効活用	4	16	
利用者評価	4	16	
事業収支	3	6	
管理運営全般	4	8	
危機管理体制	3	12	
地域連携	4	8	

評価理由

- ・「施設の有効活用」について、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行に伴い、制限を段階的に緩和し、利用者のニーズを反映した各種イベント等の実施、多彩な自主事業の開催により利用者が増加したことから「4」とした。
- ・「利用者評価」について、SNSを活用した情報発信を定期的に行い、イベントの周知や活動報告を行っている。また、利用者の利便性を図り、アンケートに個別回答し、広場及びホームページに掲載する等、様々な工夫を凝らした点から「4」とした。
- ・「管理運営全般」について、高い専門性を備えた職員を多く配置し、コロナ禍での制限がある中、様々な工夫を凝らし、利用者へ寄り添った対応ができていた点、また常に衛生管理に細心の注意を払い、来館者が安心、安全に利用できるよう5類移行後も引き続き館内の清掃、消毒等適切に実施されている点から「4」とした。
- ・「地域連携」について、スタッフがほぼ市内雇用、授産施設からの物品購入、地域事業者との協働、教育機関との連携、更に月1回有線放送にて情報発信を行う等、地域を活用した管理運営ができた点から「4」とした。

取組み・改善案等(施設所管課)	前年度からの課題	改善状況	改善案等(改善されていない場合)
	・関係機関と連携し、子育て世帯の支援体制を整え、孤立防止に努める。 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、増加が見込まれる利用者が安心・安全に利用できる施設運営の維持。	・相談業務の充実(多岐にわたる相談内容)により、多くの専門関係機関と連携し、利用者の子育ての不安解消に繋がる支援ができた。 ・新型コロナウイルス感染症が5類移行に伴い、制限の解除やイベントの再開、引き続き感染症対策の消毒等を徹底し、昨年度より来館者数が大幅に増加した。	
次年度の目標・取組み等(施設所管課)	・SNSを活用し、イベント、育児講座等の情報発信して、育児の孤立防止支援を図る。 ・支援が必要な家庭や転入者へのサポートの更なる充実、関係機関との連携の強化。 ・こども広場が身近な相談場所として、子育てコンシェルジュ等スタッフがより自覚を持ち専門性を発揮していく。		

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

- ・予約制、利用時間と回数等の制限が撤廃され、子育て中の方が各々の必要によって利用できるようになった。
- ・新型コロナ感染症の5類への移行により、施設2階の飲食ルーム及び午睡室を再開し、利用者の利便性を図った。
- ・妊娠期からの孤立解消に向けての取り組みとし、子育てコンシェルジュが休日マタニティセミナーで利用者支援事業の説明を行い相談業務につなげた。
- ・長野市保健所健康課母子保健協働事業「休日マタニティセミナー」の継続開催では担当課と協議し2階のみでの開催にした。それにより1階フロアの通常利用への移行で利用者数増加へとつなげた。
- ・平日開催の母子保健協働事業「ふたごみつご広場」は、就園児家庭の参加を可能とするために、日曜開催を自主事業で行った。
- ・南部図書館、近隣住民自治協議会への利用者支援事業の広報活動、また各メディアの取材を受け利用や相談につなげた。
- ・篠ノ井交流センターでの「子育て広場」13回(280組)へ講師を派遣し、利用者が広場以外の場所でも安心感をもって活動参加できるようにした。
- ・休止していた絵本の貸し出しを再開した。
- ・利用者の要望から小児科、病院等のマップを作製し掲示した。
- ・利用者からの要望に応え、親子と触れ合う遊びを再考し提供した。
- ・発達に応じた遊び、発達を促す遊びの提供をした。

② 業務の効率化に対する取組み

- ・勤務がシフト制のためSNSを活用して、職員間の情報共有を図るようにした。
- ・毎月、全員参加の会議を行い、行事予定や状況に応じた問題点などを確認することで、周知徹底を行った。
- ・子育てコンシェルジュ会議を内部で行い、支援が必要な家庭等の情報共有をした。
- ・利用者の登録、入退館をパソコンで管理することで集計、調査の時間短縮を可能とした。
- ・自動掃除機を導入し、施設内掃除の効率化を図り、空いた時間で消毒作業を行った。

③ その他

- ・子ども用衣類と育児用品リユースは1階フロアへ移動させ、常時提供できるようにした。
- ・長野市保育園支援センター支援員の視察場所として「このゆびとまれ」を提供した。
- ・長野市緊急時における災害支援ネットワークに参加している。(昨年からの継続)
- ・粉ミルク、離乳食等の寄付を常時受付けることにより、保健所及び保健センターからの依頼に無償提供を可能とした。
- ・フードバンク信州、コープながのと協力し廃棄されるパンを引き取り広場利用者や地域の方に無償配布する会場とした。
- ・地域の伝統行事(獅子舞、山車、納涼祭、節分会)の紹介をして継承の支援を行った。
- ・ホームページ、Instagramを活用し、広場や地域の出来事や情報を発信し、利用者の増加につなげた。

(2) 指定管理者業務実施上の課題

- ・施設の老朽化、経年劣化による設備の不具合が年々増えている。予算などの関係からすぐ対処できないことが問題である。
- ・開館中における職員体制は、常時3名以上で配置している。しかし、職員の急病、忌引きなど不測の事態が起きた時の対処法を担当課と共有しておく必要がある。
- ・「このゆびとまれ」は7日型の地域子育て支援拠点である。利用制限がなくなり自由に利用ができるようになったことから、子育てコンシェルジュへの相談が不在時の水曜日、日曜日にも必要とされている。そのため、利用者支援事業(子育てコンシェルジュ)の配置は開館日全日が望まれる。

(3) 総合評価 評価基準  
 【A】計画や目標を大きく上回る 【B】計画や目標を上回る 【C】計画や目標どおり  
 【D】計画や目標を下回る 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者  
自己総合評価

A

① 評価理由

- ・新型コロナ感染症5類への移行に伴い、利用の仕方がコロナ前とほぼ同じになる。利用方法に制限のあった昨年と比べ利用者数が大幅に増えている。長野市民に限らず、近隣市町村(とくに千曲市)からの利用、長野市に転入間もない方の利用も多かった。
- ・いずれも、口コミなどの紹介、SNSの効果が大きかったと実感している。
- ・自主事業の英語講座から長野市サークル助成金利用のサークルへ発展させる支援が行えた。
- ・目立った苦情はなかったものの、アンケートによる意見要望については、職員全員で考え、改善できるものについては迅速に対応した。
- ・危機管理については、フロア内外の安全を配慮するとともに、防災訓練を利用者と一緒に行い意識を高めた。

② 次年度以降の取組み

- ・SNSを利用したおしゃべり会、施設紹介などの活発化で孤立防止支援。
- ・転入者交流支援。
- ・発達に特性のある子どもを持つ家庭の交流場所の提供。
- ・父親の育児休暇を活かす活動の支援。
- ・妊娠期からの施設周知を促すための周知活動。
- ・子育てコンシェルジュの周知活動。(継続)
- ・ふたごみつご家庭の先輩ババママの交流の促進。
- ・「ながの子ども・子育てフェスティバル」への協力